

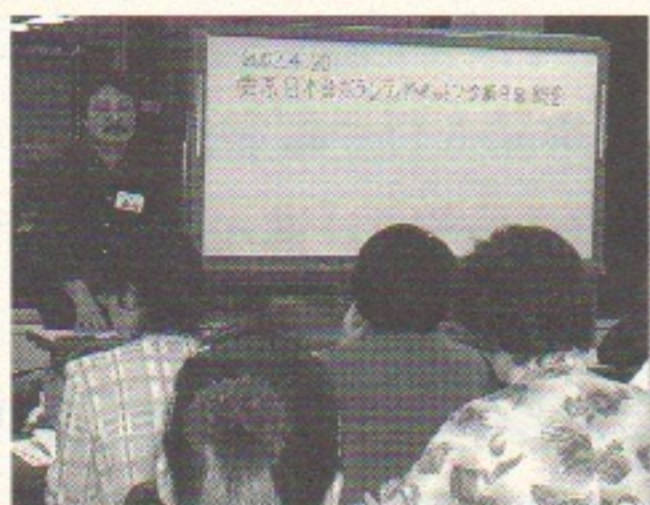
# Nihongo Network News

2002.5.10発行

No. 36

TNVN東京日本語ボランティア・ネットワークは、ボランティア日本語教室活動を行っている団体のネットワーク（連絡協議会）として、情報交換や活動の活性化を図ることを目的に、1993年12月に結成されました。TNVNの会員はそれぞれの地域で日本語教室活動を通じて、言葉のために日常生活に不自由を感じている外国人などを隣人として支援しています。

TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワーク  
〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1 ☎03-3235-1171  
東京ボランティア・市民活動センター メールボックスNo.4



## TNVN第9回総会が開かれ、 2002年度の活動が 始まりしました

最近の世情は世界・国内を問わず自国だけでは対応が出来ない事件・現象が多発しています。私たち個人も一層世界を眺める視点での対応が要求されています。

地域社会に根ざしたボランティア日本語教室ではボランティアの方々が日々日本語を学習したい学習者を迎え草の根の国際交流・学習支援をしています。

学習者はアジア地域の国々を始め世界各国の人たちが日本に来て生活し、日本語の学習を通し、生活に困らない会話能力や、日本人と交流を求めています。

一方外国人に日本語を教えるボランティアを希望する人々が活動の場を求めています。

TNVNは東京地区でボランティア日本語教室活動を行っている団体のネットワークとして日本語教室活動の情報交換や活動の活性化、活動についての相談・問い合わせに対応してきました。しかしこの9年間 取り巻く社会の変化がTNVNの活動にも及んでいます。具体的には

WEBを通じたの情報交換・情報提供が主流となりつつあります。

2002年度の活動を始めるに当たり、今後のTNVNの役割・存在意義を検討し活動を進めていきます。

しかしTNVNの活動は役員・スタッフ・運営委員を中心に団体や個人からのボランティアが関わり、限られたメンバーで行われています。今後ともTNVNの活動・運営・資金に皆様のご支援を切望します。

第9回総会が2002年4月20日(土)午後6時から東京ボランティア市民活動センター会議室で開催され、議長選出の後2001年度活動報告・会計報告が行われ、2002年度役員選出と2002年度活動計画・活動予算が審議承認されました。

そのあと福田知行先生(日大助教授)の講演があり懇談会では出席者間で活発な交流が行われました。



### 2002年度役員

- 代表 梶村 勝利  
(早稲田奉仕園日本語ボランティアの会/新宿区)
- 副代表 山本 敬子  
(日本語ともの会/北区)
- 副代表 木村 茂  
(グループWA/足立区)
- 会計 矢加部 百合枝  
(江戸川日本語ボランティア連絡会/江戸川区)
- 事務局長・会計(兼務)  
山崎 美智子  
(定住外国人支援ネットワーク/小平市)
- 監査 伊藤 泰子 (協会員)

事務局の  
活動時間が  
変更になります

詳しくは4ページを  
ご覧ください

# 日本語、同化、異化

東京大学留学生センター教授

栖原 暁

外国人に接する仕事を始めて30年近くなるが、私は日本語を教えたことがほとんどない。これはもちろん自慢になることではない。

私がアジア文化会館で仕事らしきことを始めた1975年に、最初に取り組んだことの一つが台湾を經由して着の身着のまま来日した5人のベトナム人青年をつれて東京入国管理局に足を運ぶことだった。「日本にいる」というただそれだけのことがなぜそれほど困難なことなのか、当時の私には大きな衝撃であった。外国人に対して入管法というバリアが厳然と睨みをきかせている現実に触れ、自分が日本国籍を持って日本に住む日本人であることをいやというほど思い知らされた。国民健康保険加入もアパートへの入居も、大学への入学も、就職も、結婚も、あらゆるものがこの「日本人」を前提に仕組みがつくられている社会、それ以外のものを「異人」として排除する社会……これが「日本」であることを発見したのである。とすれば、当時外国人にとって日本語の上達にどれほどの意味があったであろうか。砂漠の中にわずかに点在する孤島に身を寄せて暮らし、用が済めば自国に戻ればよい、あるいは戻らざるを得なかったのである。留学生専用宿舎である国際交流会館を「国際孤立会館」と留学生が仲間内で呼んでいたのはそんな昔のことではない。

しかし、その後世界の国際化の進展が早まり、モノやカネのみならずヒトが国境を越えて行き来する時代が日本にも訪れてきた。特別のゲストとして、あるいは無視しうる、取るに足らない存在として受け入れてきた外国人が、質量ともに多様化し、日本社会のあらゆる場面で存在感を示し始めている。かれらは「孤島」に入りきらず、溢れ出すように地域社会の只中に住み広がり、異文化的なるものを周囲に散布する。「多文化共生社会」への希求が一部で主張される所以である。

私が「孤島」の中で少数派の日本人として彼らと接していた当時、彼らを日本に「同化」させることはあり得なかった。むしろ、私は彼らと接することを通じて己を「異化」する方向に押し

やられた。そこでは、ある意味で「多文化共生社会」が成立していたのである。しかし、地域で、学校で、会社で外国人の受け入れが進んでいくとすれば、どうなるであろうか。毎朝全社員を前に日経新聞を朗読させられた外国人社員は「日本人のようになることが会社で生きていくためのポイントだ」と自らに言い聞かせるように語り、証券会社に入社した外国人は国内営業を命じられ毎日グラフに示される営業成績に嫌気がさし辞めていった。奨学金申請を行う留学生は皆ハンで押したように、来日の目的を「進んだ技術」や「発展した経済」を学ぶためと書き、日本人を「勤勉」「親切」「礼儀正しい」と誉めるが、男尊女卑や電車の中のマンガ、酔っ払いなどに批評を加えることも忘れない。そして卒業後は帰国し自国の発展のために役に立ちたいと書き連ねる。何度も同じパターンの文章を読まされるうちに、これらは、実は日本人自身の考えの反映に過ぎないのではないか、とふと思う。

アジア文化会館の創設者である故穂積五一氏は、1960年設立当時に技術研修生のための日本語講座の教壇に自ら立ち、日本語を教えた。氏はアジア諸国に対する自身の熱い思いと侵略への反省を表す例文を頻繁に提示することで自らの思想を伝え、まだ独立の熱気冷めやらぬアジアの青年たちを魅了した。外国人の定住化傾向が進みつつある今日、彼らに提示すべきものは何だろうか？意図せざる結果としてあれ、自身を「異化」するよりは、「日本化」の推進役として機能してはいないのか？日本語教師であれ、日本語学習支援者であれ、対面する外国人から見れば、日本語の絶対的オーソリティーとして受け取られやすいだけに気になるテーマである。そしてこれは最近になってやっと日本語の現場に関与し始めた私にとって大きな課題でもある。

●連絡先

〒113-0033東京都文京区本郷7-3-1  
東京大学留学生センター  
suhra@ic.u-tokyo.ac.jp

# ご存知ですか？

## 新聞紙の利用法

### 新聞紙は、たのしいな！

身近な新聞紙を使った簡単なゲームを学習のひとつに取り入れては如何ですか。

レク・コーディネーター  
伊藤 泰子



### 新聞紙パズル

各自に、渡した新聞紙1枚を、好きなように切り裂く（8回位）。それを隣の人に渡し元通りに何分で、復元することができるかのゲーム。

### 新聞紙ジャンケン

新聞紙をカードの大きさに切って用意。各自にカードを10枚渡す。ジャンケンをして勝ったら、カードをもらい、負けたら渡し、タイム内にたくさんカードを集めた人が、勝ち。展開として、カードを利用して、単語作りなども考えてみては！

### 「の」の字さがし

各自に新聞紙を1枚配り、赤ペンの用意。1分間に、「の」の字をいくつ探せるかのゲーム。「の」の字に赤丸をつけます。チャンピオンは、38個探しました。……「の」の字でなくても良いですね。……

### 長さくらべ

各自に新聞紙を配る。それぞれの人の直感くらべゲーム。例えば、「長さ38センチを作ってください。それぞれの切った長さを比べてみましょう。どの位の誤差があったか？一番近い人が、長さチャンピオン。

## 万華鏡

### 文化の違い

大原 徹夫（まちだ地域国際交流協会）

世界には沢山の国々があり、夫々に文化がある。考え方が客観的であったり主観的であったり、又受動的であったり能動的であったりする。

#### 1. 病氣見舞い

中国人の見舞い客は病人を慰めるのに「やあ顔色が良くないね！会社のことは私たちがちゃんとやるから、安心してゆっくり休み給え」という。この病人が日本人だったら、いきなり「顔色が良くない」といわれて少なからぬショックを受けるに違いない。その上「会社のことは私たちがちゃんとやるからゆっ

くり休め」などと聞いては「もう君は必要ない」といわんばかりの言い方で、これでは治る病氣も治らないだろう。これを私が支援している中国人の学習者に確かめたところ、「顔色が良くない」というのは病人だから当然のことで、顔色が良くないから早く良くなりなさいと激励しているので、「ゆっくり休め」とは、あとの事は心配するなどと言って精神的な負担を少なくするように慰めているのだという。中国人の場合は、相手中心の客観的判断に徹するのに比べて、日本人は他人の病欠を自分に結び付け自分にふりかかった問題として捕らえようとする。

#### 2. 八方美人

「誰にでも悪く思われないように要領よく付き合っていく人」と言うのが日本的な解釈である。中国でも「八面玲瓏」又は「八面美人」と言って「誰に対しても何に対しても当たり障りがない」と

言う日本の八方美人と同じ言葉がある。しかしお隣の韓国では「全く非のうところのないプラス評価の人物」と言った意味で用いられると言う。韓国語が世間から見て素晴らしい人物という客観的態度であるに比べて日本語は受身の姿勢である。

#### 3. 顔と足

人間が社会から見られる個所は顔であるから、世間に知り合いが多く何かと融通が利くことを日本では「顔が広い」とか「顔が利く」などと言う。一方お隣の韓国では顔の代わりに足を用いて「足が広い」と言うそうである。これも学習者に聞くと足が広いから何処にでも行けると言う。きわめて積極的な姿勢である。では中国ではどうか？中国ではこれに当てはまる適当な言葉はないようで、「面子大」と言う言葉があると言う。中国では「広」ではなくて「大」を使うようである。

# 大阪にほんごボランティアネットワーク

大阪にほんごボランティアネットワーク事務局

〒530-0035大阪市北区同心1-5-27

市立社会福祉センター3階(社)大阪ボランティア協会気付

E-mail: liebre@clubaa.com ホームページ [http://www.geocities.com/osaka\\_nvn/](http://www.geocities.com/osaka_nvn/)

## 大阪にほんごボランティアネットワークを訪ねました

大阪にほんごボランティアネットワークは1999年の9月18日にできた新しいネットワークです。その日、60名近くの人が、「とにかく一度集まって話し合おう」という呼びかけのもとに集まりました。

集まったのは、日本語に関わる者として多方面での情報を共有したいと考えていた人たちです。そして、「とにかくネットワークを立ち上げよう」と決め、同時にメーリングリストを立ち上げるためのグループを作りました。

そのネットワークの形を考えるにあたり、他の地域での日本語ボランティアネットワークの活動について検討した結果、他にはない、新しいネットワークの形を目指しました。

それまでのネットワークでは中心人物の活動が目立っていました。しかし、ネットワーク形式をとるなら、もっと違う形の活動ができるのではないかと、つまり、代表者を決めなくても、いや、代表者を置かないことによって、皆が活発に活動していけるのではないかと、そのためにはどのような形のものを作ればよいか、という課題に取り組んだのです。

まず一ヶ月か二ヶ月に一回の会報では情報がうまく伝わらないという問題を取り上げ、当時3分の2のメンバーがe-

mailを使っていたことから、情報伝達にはe-mailを使いファックスで補おう、ということになりました。

メンバーの中でインターネットに詳しい人が集まり、組織運営の中核となる管理グループを作りました。全員で仕事を分担しようという考えから、会員をグループに分けグループごとに活動することに決め、そのグループを「プロジェクト」と名づけました。

そして中核となるプロジェクトを4つ決め、必要に応じて増減できるようにし、会員は全員最低一つのプロジェクトに所属して活動することにしました。

以下、大阪にほんごボランティアネットワークの活動内容について説明します。

- ◎e-mail又はファックスによっていろいろな情報を入手
- ◎e-mailなどを利用して情報を発信。
- ◎活動グループであるプロジェクトに入り、活動に参加

## 基本プロジェクト

- 運営PJ(運営に関わる事項の協議と実施)
- 管理・会計PJ(会員管理・会計事務)
- 記録・会報PJ(会議の記録・文書の管理・会報発行)
- 情報・渉外PJ(情報の収集・広報・外部との折衝)

## BULLETIN BOARD

### お知らせ

#### 事務局の活動時間 変更について

東京日本語ボランティアネットワークは日本語ボランティアに関するお問い合わせご相談を毎週金曜日に直接事務局でお受けしています。

ニュースレターでもご紹介している通り最近E-mailでの案件が非常に多く、対応に追われ、直接の案件が少なくなっています。

一方スタッフ(すべてボランティア)が少なく、事務局での対応が問題となっています。

上記の状況により事務局を下記の通り開きますのでこれまで通りご利用をお待ちしています。

#### ◆事務局の活動日/毎週金曜日

第1・第3・第5金曜日 午後2時～4時

第2・第4 金曜日 午後2時～7時

FAX/E-mail でのお問い合わせ・ご相談・入会手続き等をご活用ください。

FAX 03-3235-0050

#### ◆宛先/東京日本語ボランティアネットワーク

メールボックスNo.4 を明記ください

#### ◆MAIL ID/tnvn@t3.rim.or.jp

#### ◆URL:/http://www.t3.rim.or.jp/tnvn/

## 日本語教室ボランティア教師募集

### 【渋谷日本語グループ】

◆教室の場所/渋谷区神宮前神宮前区民館

◆日時/毎週土曜日

午前10時から12時まで

◆レッスン/初級、中級のグループ・レッスン(3グループ)

◆条件/日本語教育受講者または経験者  
月3回以上出席可能な方

◆連絡先/藤田 道雄(ふじた みちお)

世田谷区中町1-21-3

## その他のプロジェクト

■研修・講座PJ(講座・研修会の企画・実施)

■教材PJ(教材の研究・開発)

■イベントPJ(イベントの企画・実施)

■難波PJ(大阪市立難波市民学習センターとの共催による日本語教室の活動)

■ホームページPJ(大阪NVNのホームページ企画・作成)  
各プロジェクトごとに連絡担当者1名と連絡網があります。情報の共有は、2つのメーリングリストによって行われています。

一つは各プロジェクトの連絡担当者から連絡事項を流す「お知らせちゃん」、もう一つは互いに意見、情報交換する「おしゃべりちゃん」です。

会全体としては2ヶ月に一度の定例ミーティングで、各プロジェクトの活動報告をします。

現在大阪では府や市と日本語ボランティアの協働による、いろいろな形での日本語関連事業が推進されています。中でも特筆すべきは、2000年9月に同ネットワーク設立一周年を記念して開催された「日本で暮らす外国人の日本語学習を考えるフォーラム」です。

国立国語研究所との共催、大阪府・大阪市の教育委員会の後援、日本財団の協賛を得て実現したこのフォーラムは、200人を越える参加者により大阪国際会議場で開かれました。

これはもちろん「フォーラム開催プロジェクト」の16回の

ミーティングの成果です。当日は託児のボランティアをはじめ、ネットワーク以外の多数のボランティアの協力もありました。

AとBの会場に別れ、A会場ではボランティア向けの講演会、B会場では外国人が母国語である中国語・英語・韓国語・ポルトガル語・スペイン語で、また母国語がそれ以外の方は日本語で、思い切り話す分科会が開かれました。その報告書も、発言者の言葉と日本語訳から成っています。各分科会で、外国人が日本で暮らす上での問題点について母国語で活発な話し合いが行われた様子が、報告書からあふれています。フォーラム開催にあたっての「日本語で暮らす外国人に自分の国の言葉で思いっきり話してほしい」という大阪にほんごボランティアネットワークの思いは十二分に達成されたようです。

今後大阪における同ネットワークの役割はどんどん大きくなっていくことと思われます。

しかし、次々と新しい企画を考えそれを自在な形で実現させていく大阪にほんごボランティアネットワークの活動の影響力は、大阪にとどまることなく、日本各地にある日本語ボランティアネットワークの今後の活動に大きなヒントを与えてくれることと思われます。

◎取材にあたりまして、大阪にほんごボランティアネットワークの久保房子さん、上井尚子さん、永井慧子さんにご協力いただきました。ありがとうございました。

(藤橋 帥子)



◆FAX/TEL 3705-2377

◆E-Mail/fwks8950@nifty.com

### 【西大井日本語サークル】

◆教室の場所/JR横須賀線、西大井駅前  
メイプルセンター5F

◆日時/毎週月曜日、木曜日  
10:00~12:00

◆条件/日本語ボランティア講習を受けた方、日本語指導の勉強をしたことのある方をのぞみますが、熱意と責任感のある方ならどなたでも歓迎いたします。

詳細はメールで。

◆連絡先/西大井日本語サークル  
加畑裕美子

◆E-Mail:nisio-i@cts.ne.jp

### 日本語フォーラム2002開催

◆主催/日本語フォーラム実行委員会  
このフォーラムでは、子どもを含む外国人住民の日本語学習やホスト社会の多文化教育等の機会をどうすれば保障できるかについて考えます。

◆内容

(1) 多文化・多言語社会の創造

(2) 日本語学習機会の公的保障

(3) 外国人等子どもの教育保障

◆資料/「東京宣言」解説書

◆日時/5月19日(日)9:00~16:00

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター  
(JR飯田橋駅徒歩2分)

◆費用/500円(但し、解説書は実費)

◆締切/5月12日(日)

◆定員/先着80名

◆申し込み・問い合わせ

FAX:03-3691-4603

Mail:jimukyoku@nihongo.forum.ne.jp

## 会員団体紹介

中学生と共に多文化交流に取り組む

## グループWA

木村 茂 (足立区)

足立区内の小中学校に在籍するニューカマーの児童生徒は、原則として適応講師による日本語指導を受けています。したがって、半年もすると日本語もある程度わかるようになり、学校生活にもなじんできます。

しかし、言語や生活の違いに苦しむこ

ともめずらしくありません。その結果、受けたストレスから生徒が登校拒否や理解に苦しむ行動に出ることがあります。このような文化的ギャップを埋めるための活動として、グループWAでは、洲江中学校のボランティア部員とインターネットを活用した多文化交流に取り組んでいます。この活動のねらいは、パソコンなどのメディア機器を活用し、情報リテラシーを向上させるとともに、国際理



解の一環としての日本語ボランティアを体験学習することにあります。

教材としては「にほんごをまなぼう」や「リソース型生活日本語」、「日本語教育支援総合ネッ

トワークシステム」などから、自分の興味があるものや必要なものを適宜ダウンロードして利用しています。

現在は、まだ試行錯誤段階ですが、ホームページを作成したり海外の日本語を学ぶ中学生などとメール交換して学びあい、多文化コミュニケーションの実体験をしてみたい、とメール練習を繰り返すなど、中学生ともどもパソコンの楽しさを味わっております。



## 賛助会員紹介

### (株)スリーエーネットワーク

●本社

〒101-0064

東京都千代田区猿楽町2-6-3松栄ビル

TEL:03-3292-5751

FAX:03-3292-6195

ホームページ: <http://www.3anet.co.jp>

「みんなの日本語」「新日本語の基礎」をはじめ日本語関連教材や一般書籍の紹介をしています。ぜひご覧ください。

当社は日本語・日本事情の教材と参考書、ならびに海外事情の紹介や異文化理解をテーマとした一般書籍を出版しています。日本語教材の「みんなの日本語」シリーズは、日本語の基本文型の習得とより自然な会話の練習を特色とし、学習者の多様なニーズに応えられる初級総合教材の定番です。翻訳文法解説の各国語版をはじめとする付属教材も充実し、学習者・教師の双方にわかりやすく使いやすい教材として、国内外で広く活用されています。

#### ●新刊紹介

◎日本語でボランティア

～外国語として日本語を教えるって?～  
グループにほんごでボランティア・著  
定価:本体950円+税/A5判136ページ

本書はボランティアで日本語を教えるために必要な知識をまとめた入門書です。1、2章では日本語を外国語として捉えなおし、外国人とのコミュニケーションについて考えていきます。3、4章では授業運営や、授業の組み立て方、教案の書き方、教材の使い方について。5章ではボランティア活動そのものについて解説されています。ポイントがコンパクトにまとめられていますので、すでに日本語を教えている方にもおすすめです。

#### ●新刊・セミナー情報

◎日本語情報誌「Ja-Net」(年4回発行)

◎「メールマガジン」(月1回発信)

をご利用ください(無料)。

お申込は郵送、FAX: 03-3292-6197

E-mail: [ja-net@3anet.co.jp](mailto:ja-net@3anet.co.jp)

## どんな教材を使っていますか

3月15日、ボランティア・市民活動センターにおいて20名近い参加者のもと上記のテーマで情報交換会が開かれました。

まず、参加者から、それぞれの教室で使っている①コピー可を銘打った入門用テキスト、②挿絵が楽しい初級用手作りテキスト、③レッスンに使ったプリントのファイル、スーパーでもらったレシピなどが使い方と共に紹介されました。

そのほか、自作初級用テキストが2点紹介されましたが、入門用の良い市販テキストが少ないという意見が多く、特にゼロからスタートする学習者に対しては、教室用語の充実、学習者とのコミュニケーションの取り方など、様々な工夫が体験談を交えて出されまし

た。絵カードは必需品という意見もあり、市販カードが利用されているようです。

続いて、ボランティア教室ならでの学習の進め方について、市販テキストを使う時も語彙を学習者に合ったものに変える、テキストの順にこだわらない、日常生活に密着したチラシや写真を使うなどの意見が出されました。小学校社会科教科書のカラフルな挿絵を、初級から上級までに使うという具体例も報告されました。

一方、市販テキストは必須語彙、文型が網羅されており、ボランティアが安心してレッスンに臨めるという声もありました。

いずれも実践を踏まえた貴重な生の声ばかりの情報交換会でした。

# 「坊ちゃん」と私

宝 宝 / 中 国  
日本語グループかたつむり / 北区

言うのは失礼じゃないかと母は帰って、家で異議を唱えた。当時はたぶんわからなかったから、あまり気にならなかったが、今振り返ってみると、やはりその先生がノーコメントのほうが良いじゃないかと思う。

小学校までの成績は悪くなかったのに、なかなか先生たちは私のことを利口とは認めてはくれなかった。大体先生たちに評判だった子たちはみんな先生のご指示どおりにするか、先生を喜ばせる話をするかで、それは当たり前かもしれない、でも私は正反対だった。

家にある写真が一冊の古いアルバムに入れている。それは十何人の三、四歳の子供たちが、天安門を背景にしている記念写真なのだ。よく見ると、みんな前に向いているのに、その中にある子の顔が横を向いている。その子は私だ。

なぜなら、シャッターを押す直前に、先生が「みんな、前を見て」といわれたからだ。

そんな私は学生時代の終わりまで、自分が絶対利口な子に違いないと確信していた。社会人になったら、だんだんそんな自信がなくなってしまった。

もし、ある日私に自身が戻ったら、自分がどんなふうになるのと毎日楽しみに待っている。

去年の夏ごろ、中央公園文化センターの日本語グループで、夏目漱石の小説「坊ちゃん」の授業は始まった。それから、週に2回の授業は大人気の連続ドラマみたいに、毎週の楽しみになった。坊ちゃんはどうなるのと、いつも明治時代の小説、人物の安否を心配し続けて、いよいよ授業で知りあってから1年ぐらいの友達と“バイバイ”しなければならないという気持ちで、「坊ちゃん」の最後のページを読んだ。

どうしてこんなに坊ちゃんの運命を心配したかと言うと、この小説を読めば読むほど自分の性格は主人公に似てるんじゃないかと思うからかもしれない。

生まれた家庭はそんなに金持ちじゃないが、父は医者で、私は9歳年上の一人の姉のいる末っ子で、特に母は可愛がって育てられたのだ。幼いころ、坊ちゃんの父親のように、「お前はだめだ、だめだ。」とは言われなかったが、ある日、母が幼稚園に私を迎えに行った時、幼稚園の先生は、問われなかったのに、わざと「お子さんは、どう言えばいいかわかりませんが、馬鹿とは言えないけど、利口な子とはいえませんね。」と母に教えた。

なんという評価だ、うちの子をそんなふう

私が日本語ボランティアを始めて2年になりますが、いまだに学習支援者として試行錯誤を続けています。

日本語教室は、学習者にとって日本語を学ぶ場であると同時に、日本で生活するための情報交換の場でもあります。私はしばらくの間、この情報提供ができずにいました。というのも、私が所属する「初歩日本語」教室に通う学習者のほとんどは、日本人の夫を持つ主婦なので、彼女たちに必要な生活情報は、教室の代表であり、主婦としても大ベテランの小川さんから聞くことができるのです。それに比べて、独身で家も遠い私は、情報の補足すらできず、かえって学習者に教えてもらうことの方が多いくらいでした。

ところが、去年の5月頃、私が趣味でビーズアクセサリーを作っているという話をしたところ、話が盛り上がり、ついには教室で教えることに

なったのです。このビーズ教室はとても好評で、昨年9月に行なった2回目には、日本人の友人同伴で参加される学習者も出たほどでした。

この事で、私は自分にも提供できる情報があるのだと自信が持てるようになったのですが、よくよく考えてみると、彼女たちが必要としているのは生活必需情報だけだと決めつけていたことに気がきました。世間でも「情報公開」が叫ばれていますが、その情報が必要かどうかを決めるのは、学習者自身なのです。ですから、私は自分が知っていること、見聞きしたことをどんどん伝えていくことにしました。それによって、ほんの少しでも学習者の生活に彩りを与えられたらよいと願っています。

これからも、私だからこそできる情報提供をするために、さまざまなことに目を向けていきたいと思っています。

## 学習者への情報提供

久本千恵子

初歩日本語 / 練馬区

**東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局**

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1  
東京ボランティア・市民活動センター  
メールボックスNO.4  
TEL: 03-3235-1171  
(呼び出し:金曜日午後のみ)  
FAX: 03-3235-0050  
URL: http://www.t3.rim.or.jp/tnvn/  
MAIL ID: tnvn@t3.rim.or.jp

- 事務局は金曜日に活動しています。
- ◆日時: 毎週金曜日午後2~7時  
ただし6月から第1・第3・第5金曜日は午後2~4時となりますのでご了解ください。
- ◆場所  
東京ボランティア・市民活動センター

**●日本語ボランティア相談窓口**

事務局では日本語ボランティアに関するご相談・ご質問にTNVNのベテランスタッフがおこたえします。電話でご確認の上、お気軽におこしてください。

**●日本語ボランティア入門講習会**

日本語ボランティアを始めたい方のために役立つ基礎知識の講座です。活動のオ

リエンテーションとしてぜひ受講してください。全4回(4ヶ月)

◆テーマ

- (5月) 学習者はどのような人たちか?
- (6月) 日本語学習をどのように支援するか?
- (7月) 日本語ボランティアとは?
- (8月) 日本語再発見

◆日時

- 5月10日(金) 午後2:00~4:00
- 5月24日(金) 午後6:00~8:00
- 6月14日(金) 午後2:00~4:00
- 6月28日(金) 午後6:00~8:00
- 7月12日(金) 午後2:00~4:00
- 7月26日(金) 午後6:00~8:00
- 8月9日(金) 午後2:00~4:00
- 8月23日(金) 午後6:00~8:00

◆会場

東京ボランティア・市民活動センター  
飯田橋セントラルプラザ10階会議室  
(JR・地下鉄飯田橋駅下車徒歩1分)

- ◆参加費/1回600円(TNVN会員は300円)
- ◆参加申込み/直接、会場へおこしてください。

**●TNVNへの入会を希望する方は**

TNVN事務局まで「活動・入会案内」を郵便でご請求下さい。(送料90円 切手同封)  
<入会手続>申込用紙に必要事項を記入し、TNVN事務局に郵送またはFAXでお送り下さい。あわせて会費をお振り込みください。会員の方には毎回ニュースレター等を郵送するほか、TNVN主催の講習会等へ会員価格で参加できます。

- ◆会費/正会員: 年会費3,000円  
協力会員: 年会費2,000円  
賛助会員: 年会費1口1万円

◆会費払込み先

郵便振替口座番号00100-1-719259  
口座名  
東京日本語ボランティア・ネットワーク  
(通信欄に「年会費」と記入)

**連絡先の変更等は、郵便かFAXで**

団体の代表・連絡先(TNVNからの郵便物の宛先)・住所などの変更および退会は、事務局まで郵便やFAXでお知らせください。



**Mail**  
**メールの問い合わせ**  
**あれこれ (2)**

日本人からは、「ボランティアをしたいのですが、どうしたらいいか分かりません」というものから、日本語を勉強したいと言っている外国人がいるのですが、教室を紹介してください」というものまで、幅広い問い合わせが寄せられます。「日本語ボランティアって何ですか」という方には日本語ボランティアの基本的な考え方を伝え、「養成講座を修了したので日本語を教えたい」という方には、日本語ボランティアと日本語教師の違いを説明し、日本語ボランティアは日本語を「教える」のではなく「共に学ぶ」のだということを説明します。そし

て、できたらTNVNの入門講習会に参加されることを勧めます。ほとんどのボランティア教室では、学習者は無条件で受け入れるのですが、ボランティアの方には受入れの条件をつけているところが多いようです。そのため、住んでいるところの近くにボランティア教室があったとしても、そこでボランティアができないということもよくあるようです。いわゆる「日本語教師養成講座」を受けることと、「ボランティアとしての学習支援のあり方」を学ぶことには大きな違いがあるのですが、ボランティア教室によっては「教える」テクニックに比重が移っているところがあるのではないかと気になる今日この頃です。



**SPECIAL THANKS**

★大阪にほんごボランティアネットワーク様  
快く取材に応じていただきました。

**新入会員のご紹介**

★協力会員(個人)  
加藤 幸恵 岸田 高佳司 満島 章  
\*2002年4月15日現在の会員数: 正会員63団体、協力会員87名、賛助会員4

編集/上野悦子、大久保澄子  
岡田美奈子、甲斐武子、梶村勝利  
木村茂、床呂英一、富岡真木子  
林川玲子、山縣みつる、山崎美智子  
レイアウト/鶴田環恵